

刺激的なまちへ 工夫を

切り絵アーティスト
福井利佐さん
Risa Fukui



経歴

静岡市駿河区生まれ。静岡市立高校卒業。多摩美術大学美術学部(グラフィックデザイン専攻)卒業。1999年、JACA日本ビジュアル・アート展特別賞を受賞。中島美嘉のCDジャケットやコンサートツアーパンフレットの挿し絵、水道橋博士の単行本表紙カバー、NHK BS太宰治の「グッドバイ」アニメ版映像など多くの作品を手掛ける。静岡、東京、札幌、京都、ミュンヘン(独)など国内外で個展を開催。富士川・切り絵の森美術館で6月下旬まで3か月間、福井利佐作品展を開き大好評。静岡新聞広告賞審査員、グランシップアートコンベンション審査員、静岡県立美術館などの講師を務める。
<http://www.risafukui.jp/>



静岡市にゆかりがあり、東京を拠点に内外で活躍する皆様に、東京から見た静岡市の良さと可能性、まちづくりの方向について、ご提案いただきます。

モノの本質を線で表現

他の人がやっていないことをグラフィックで表現したいと選んだのが切り絵だった。「大学2年の後半、中学生の時に会った切り絵の楽しさを思い出し、始めたらめり込んでしまいました」。

2005年に中島美嘉のCDジャケットのイラストに使われた切り絵は大きな反響を呼び、その後NHKBSのアニメ映像作品など、手掛けるジャンルを広げた。

福井さんの作品は大胆な構図に独特な陰影が加わり、刺激的だ。例えば、網目のように顔を覆う線。「二本一本の線がその人を表しているつもりで描いています」。立体感やリアリティーを線で巧みに表し、ぱっと見ただけでは切り絵と気づかない。

「一般に簡略化して表すのが切り絵と思われがちですが、そのものの本質を見せたいとなると、線がすべて語ってくるので私は簡略化せずに必要な線は残しています」。

動植物を含め「生命力を感じさせる」作

品にこだわる。「生きていくものってすごく力強くて、そこからエネルギーみたいなものを表現したいと思っています」。

8年前から能の宝生流家元が主催する「和の会」のメインビジュアルの制作を担当。「10作目となる来年、『能』をテーマにした作品展を開きたい」と話す。

PC使う仕事人集まれ

静岡市が始めたキッズアートプロジェクトの講師など、地元静岡での仕事も多い。一方で人口の流出に心を痛め、静岡市などが対策に一生懸命取り組んでいることは認めつつも、「必死さがもっと伝わってくると嬉しいですね」。

「私もそうだったんですが、東京へ出てから東京って面白い、こんなに刺激的なところなんだと気づき、そのまま居つく人がけっこう多いと思うんですね。静岡にもそれなりの刺激性と引きつけてくれる仕事の場があったらさらに魅力的なまちになると思います」。

パソコンで全国どこでもやりとりできる時代。「東京から兵庫県に移り住んだ知人は、東京の人脈を使って著名人をイベントに呼ぶなど地元を盛り上げています」。こういう人たちを呼び込む取り組みを強化してはどうか、というわけだ。「場合によっては、東京を飛び越えて世界からさまざまな良質なモノが集まる環境も出てくると思いますね」。

(文・写真)長田義明